



国際医療リスクマネジメント学会

チーム医療安全研修会・2019

(第5回)

主催者の挨拶

チーム医療において、リーダーの存在は必要欠かせないが、リーダーだけでは効果的なチームを作り上げることは難しい。医療の世界でもリーダーについて語られ機会はあるものの、病院長、看護部長、事務長という与えられた地位に立脚した体験から生まれた方法論が重きをなしており、いかに組織を管理するかという点に目が向きがちであった。一方で、ビジネスの世界では、グローバル化、デジタル化により、経営にスピード感と柔軟性が求められるようになって久しい。そうした時代の流れを受けて、これまでのようにリーダーがスタッフに指示をして部下が動くという業務体系から、部下（≒フォロワー）が自発的に動き、上司（≒リーダー）を支援する「フォロワーシップ」に注目が集まっている。残念なことに、医療の世界では建前論は別として、現実には権力を手にしたリーダーが下を従えるという図式がまかり通っているのが実情と言える。当然、多職種チームにおけるリーダー像やフォロワー像の明確な概念は、臨床現場に浸透しているとは言い難く、医師、看護師など医療者の人間性に任されているのが現状である。多職種チームの本来の姿は、医師の指示のもとに多職種が命令に従うというものではなく、多職種の能力に敬意を払いつつ、お互いの能力を補完し合うべきものであると言えるだろう。TeamSTEPPSを初めとするチーム医療のプログラムでは、リーダーの重要性とその役割を強く説いているが、そもそもリーダーのみでチーム医療を遂行できない以上、リーダーとフォロワー（メンバー）の関係を実臨床の場面を想定しながら概念化することは重要な命題であると考えられる。

本研修では、我が国における「リーダーシップ・フォロワーシップ」研究の第一人者である、滋賀大学経済学部教授の小野善生先生の「組織行動論」、「リーダーシップ論」、「フォロワーシップ論」を中心に、この概念をTeamSTEPPSの基本的な考え方の元、医療・医療安全の世界に翻訳していきながら、演習でのリーダーシップの体感、実臨床の場面への投映などを通して、医療・医療安全の現場におけるリーダー・フォロワーの在り方・考え方について、参加者の皆さんと共有することを目的としたい。

なお、医療安全文化の更なる向上には、より高度な知識と機能を有する高度医療安全推進者が不可欠です。そこで、2015年度から日本医療安全学会の協力の下、学会認定の「高度医療安全推進者」資格制度、「高度医薬品安全推進者」資格制度ならびに学会認定の「高度看護安全推進者」資格制度を開始しました。本プログラムはこの3種類の認定資格取得における必須科目でもあります。

本研修会により、あなたの医療機関におけるチーム医療での安全文化が構築でき、患者・家族に信頼され、納得される医療を構築します。

2019年8月

酒井 亮二 (国際医療リスクマネジメント学会理事長、日本医療安全学会理事長)

辰巳 陽一 (近畿大学医学部附属病院医療安全管理部部長、教授)

主催者一同